

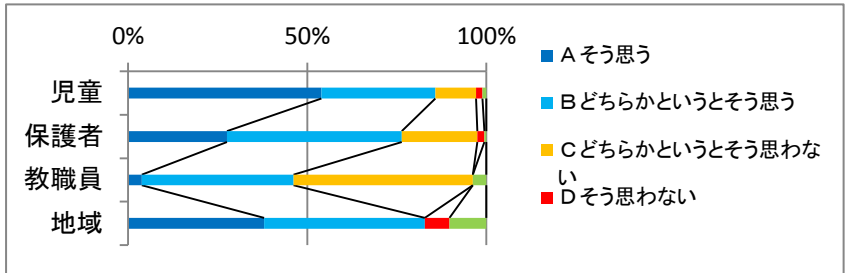
平成29年度学校評価アンケート集計結果

平成29年12月実施
仙台市立連坊小路小学校

* 協働型学校評価の重点目標

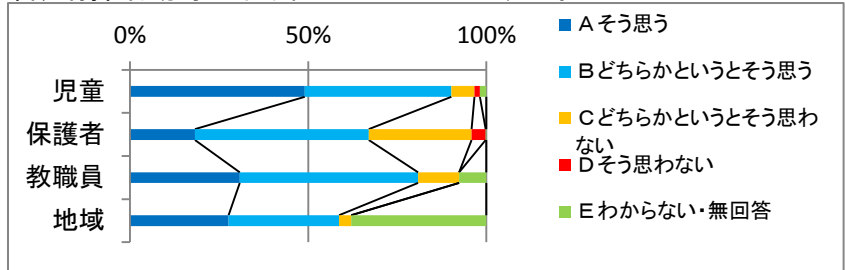
① 本校の児童は、進んで挨拶をすることができますか。

	Aそう思う	Bどちらかというと思う	Cどちらかというと思わない	Dそう思わない	Eわからない・無回答
児童	53.9	31.9	11.3	1.8	1.1
保護者	27.6	48.8	21.1	1.9	0.6
教職員	3.8	42.3	50	0	3.8
地域	37.9	44.8	0	6.9	10.3



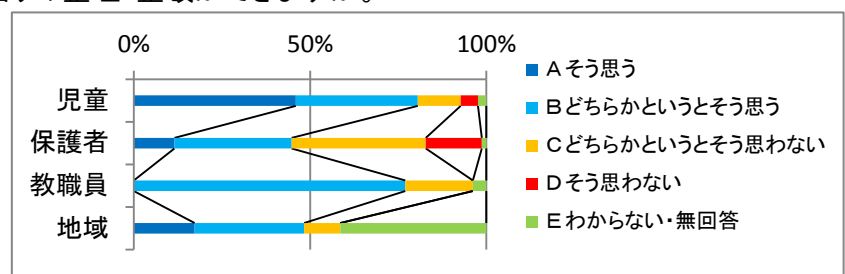
② 本校の児童は、進んで係や当番、清掃活動等に取り組むことができますか。

	Aそう思う	Bどちらかというと思う	Cどちらかというと思わない	Dそう思わない	Eわからない・無回答
児童	49	41.2	6.4	1.6	1.8
保護者	18.2	48.8	28.8	4	0.2
教職員	30.8	50	11.5	0	7.7
地域	27.6	31	3.4	0	37.9



③ 本校の児童は、進んで身の回りの整理・整頓ができますか。

	Aそう思う	Bどちらかというと思う	Cどちらかというと思わない	Dそう思わない	Eわからない・無回答
児童	45.9	34.6	12.2	4.9	2.4
保護者	11.5	33.2	38	15.9	1.3
教職員	0	76.9	19.2	0	3.8
地域	17.2	31	10.3	0	41.4



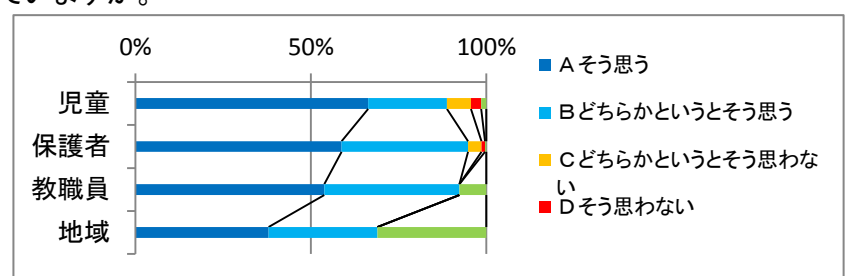
①今年度の協働型学校評価の重点目標である。児童は85%，保護者は76%，「わからない・無回答」以外の地域の皆様のほとんどが肯定的な評価をしている。しかし、教職員の50%，保護者の21%が「達成できていない」という評価である。今年度は、「自分から進んで」をキーワードにより高い目標を持って取り組んでいたが、十分な姿ではないとの評価が多かったと捉えられる。「あいことじろう」(あいさつ・ことばづかい・時間を守る)という本校独自の目標を児童に意識させながら、引き続き指導していく必要がある。

②児童、教職員の80%以上が肯定的な評価をしているが、保護者の肯定的な評価は70%を下回っている。児童、教職員の評価が高いのは、給食後の全校一斉に取り組む「昼掃除」が定着し、児童の掃除に対する意識が向上していること、協力で取り組む姿が見られるようになったことなどが理由として考えられる。

③保護者の肯定的な評価が50%を下回り、「そう思わない」と回答した保護者は約16%であり、児童の整理整頓の力が不十分であると考えていることが分かる。児童、教職員の評価は高いが、タイムテーブルの中に整理・整頓の時間を設けて指導したりすることで、整理・整頓に対する意識が高まっていることなどが理由として考えられる。今後も家庭にも協力を呼びかけたりしながら継続した取組が必要であると思われる。

1 (子供は)学校を楽しいと感じていますか。

	Aそう思う	Bどちらかというと思う	Cどちらかというと思わない	Dそう思わない	Eわからない・無回答
児童	66.3	22.4	6.9	2.9	1.5
保護者	58.7	36.1	3.8	1	0.4
教職員	53.8	38.5	0	0	7.7
地域	37.9	31	0	0	31

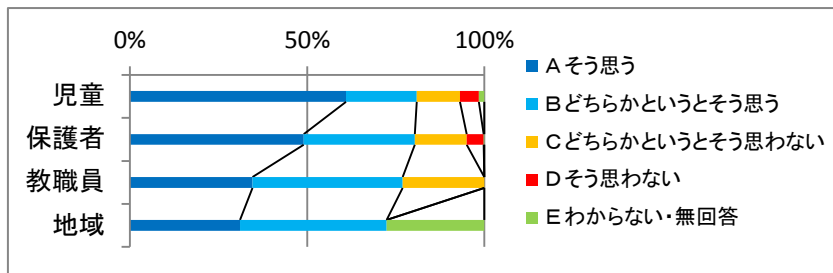


※児童: 学校に来るのは楽しいですか。

児童、保護者ともに肯定的な評価が90%程度と、学校が楽しいと感じている児童が多いことが分かる。「どの子も分かる授業」「いじめのない学校」をはじめ、学校全体での取組がこの結果に結びついていると考える。しかし、学校が楽しくないと感じている児童が10%おり、いじめの未然防止を含めて、子供同士の人間関係作りや子供の自己肯定感を高めるような支援を中心に、引き続き指導を積み重ねていきたい。

2 (子供は)進んで運動や外遊びをしていますか。

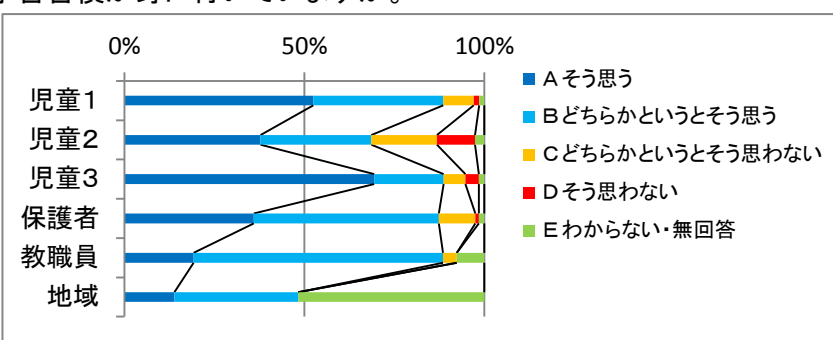
	Aそう思う	Bどちらかというと思う	Cどちらかというと思わない	Dそう思わない	Eわからない・無回答
児童	60.9	19.9	12.2	5.3	1.6
保護者	49	31.4	14.6	4.8	0.2
教職員	34.6	42.3	23.1	0	0
地域	31	41.4	0	0	27.6



昨年度に比べて、児童、保護者、教職員ともに肯定的な評価がやや下がっている。これは、「マラソントime」や「なわとびタイム」など、新たな通年運動の取組やクラス全員で遊ぶ企画などを取り入れて、外遊びを奨励したりすることが定着し、一定の成果は出ている一方、帰宅後ゲームで遊ぶことが多い子供や運動遊びを敬遠しがちな子供など、個人差が大きいことが理由として考えられる。今年度の本校児童の体力・運動能力調査結果から、基礎体力が向上する傾向が見られ、取組の成果が表れている。今後も学校と家庭が連携して、外遊びを奨励するなどの取組を進めていく必要がある。

3 (子供は)授業での基本的な学習習慣が身に付いていますか。

	Aそう思う	Bどちらかというと思う	Cどちらかというと思わない	Dそう思わない	Eわからない・無回答
児童1	52.5	36.2	8.4	1.5	1.5
児童2	37.8	30.8	18.2	10.6	2.6
児童3	69.4	19.3	6	3.8	1.5
保護者	35.9	51.4	10.2	1	1.5
教職員	19.2	69.2	3.8	0	7.7
地域	13.8	34.5	0	0	51.7



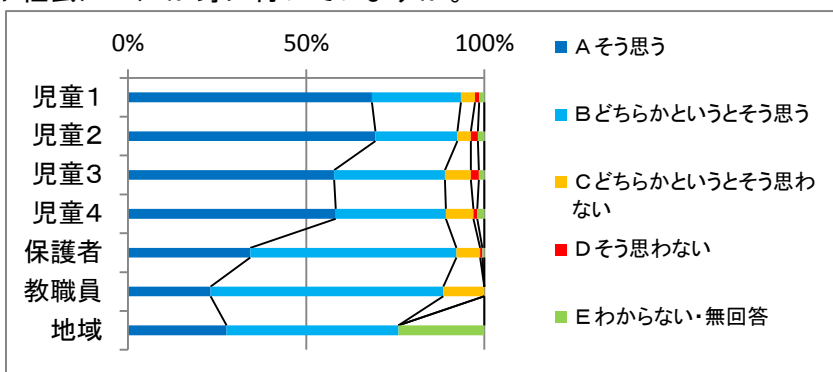
※児童1:学校の授業にまじめに集中して取り組んでいますか。

※児童2:学校の授業で自分の考えや意見を進んで発表していますか ※児童3:前の日に学習の準備をしていますか。

児童教職員の評価から、準備をきちんとし、まじめに集中して学習に取り組んでいる児童が多いことが分かる。一方、昨年同様、自分の考えや意見を進んで発表することが苦手と回答している児童が多くいることが課題である。児童が主体的に考え、対話的な学習過程、発表の機会を確保すること等、授業の改善をさらに図っていく必要がある。

4 (子供は)基本的な生活習慣や社会ルールが身に付いていますか。

	Aそう思う	Bどちらかというと思う	Cどちらかというと思わない	Dそう思わない	Eわからない・無回答
児童1	68.5	25	4	1.1	1.5
児童2	69.4	23	3.8	2	1.8
児童3	57.8	31	7.3	2.2	1.6
児童4	58.3	31	7.7	1.1	2
保護者	34.3	57.9	6.7	0.6	0.6
教職員	23.1	65.4	11.5	0	0
地域	27.6	48.3	0	0	24.1



※児童1:「ありがとう」「ごめんなさい」を心を込めて言えますか。

※児童2:安全に気をつけて生活していますか。

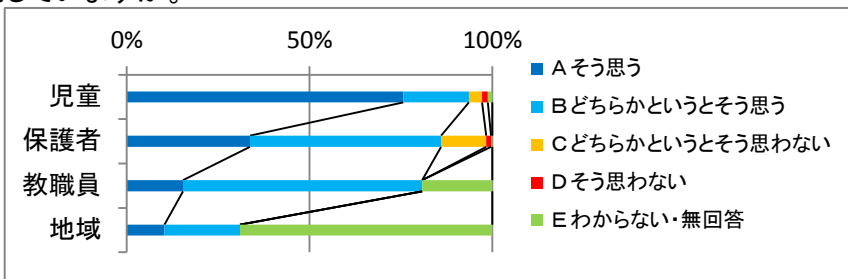
※児童3:時間を守って生活していますか。

※児童4:学校やおうちのきまりを守っていますか。

児童、保護者、教職員、地域とも、すべての評価項目において肯定的な評価の割合が80%以上である。協働型学校評価の重点目標として、家庭・地域と連携しながら「あいさつ」や「ことばづかい」の指導に取り組んできた成果が表れていると考えられる。時間前行動をするなど、児童の日常の様子からも規範意識の高さが伺える。SST・学級タイム等を活用した働き掛けを引き続き行うとともに、道徳や学級活動の授業とも関連させながら、規範意識等を育ていく。次年度も外部講師を招いて、いじめ防止や人権擁護をテーマとした授業を行う。

5 (子供は) 家庭学習を習慣化していますか。

	Aそう思う	Bどちらかというと思う	Cどちらかというと思わない	Dそう思わない	Eわからない・無回答
児童	75.6	18	3.6	1.5	1.3
保護者	33.7	52.3	12.3	1.3	0.4
教職員	15.4	65.4	0	0	19.2
地域	10.3	20.7	0	0	69

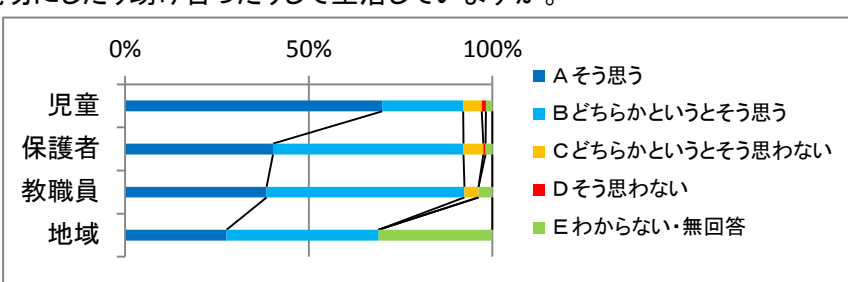


※児童:家庭学習(宿題)を忘れずにしていますか。

児童については、肯定的な評価が昨年度より5%程度高くなり94%であった。保護者、教職員については、肯定的な評価の割合が高く、これは、個人差はあるものの、学校が出した課題(宿題)を行うという点では、ほとんどの児童が達成できていると考えているためであり、学校と家庭が連絡を取り合って指導してきた成果とも言える。来年度も個に応じた働き掛けを継続するとともに、保護者と協力しながら、宿題だけでなく、自主学習のようなプラスαの学習が行えるようにしていく。宿題の量について検討が必要がある。保護者の意見も聞きながら、次年度に向けて検討していきたい。

6 (子供は) 相手を思いやり、親切にしたり助け合ったりして生活していますか。

	Aそう思う	Bどちらかというと思う	Cどちらかというと思わない	Dそう思わない	Eわからない・無回答
児童	69.9	22	5.1	1.1	1.8
保護者	40.2	51.9	5.4	0.6	1.9
教職員	38.5	53.8	3.8	0	3.8
地域	27.6	41.4	0	0	31

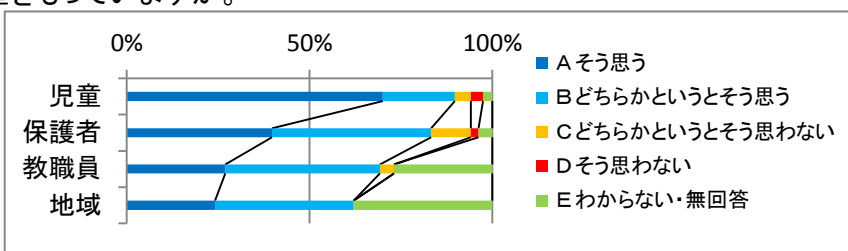


※児童:友達と仲良くして助け合っていますか。

児童、保護者、教職員ともに肯定的な評価の割合が90%を超えている。道徳教育や生活目標の月ごとの重点目標を担当の教師が朝会で話したり、目標についての振り返りの時間を設けたりするなどして児童に働き掛けてきた成果や「命を大切にする教育」の成果が表れていると考える。一方、相手の立場に立って考えることができず、相手を傷つける言葉を発してしまったり、いじめにつながるような行動をとってしまったりする児童もまだ見られることから、道徳や学級活動の時間を活用し、家庭とも連携しながら「心の教育」をさらに充実させていく必要がある。

7 (子供は) 将来への夢や希望をもっていますか。

	Aそう思う	Bどちらかというと思う	Cどちらかというと思わない	Dそう思わない	Eわからない・無回答
児童	70.1	19.7	4.4	3.3	2.6
保護者	39.7	43.5	10.9	2.1	3.8
教職員	26.9	42.3	3.8	0	26.9
地域	24.1	37.9	0	0	37.9

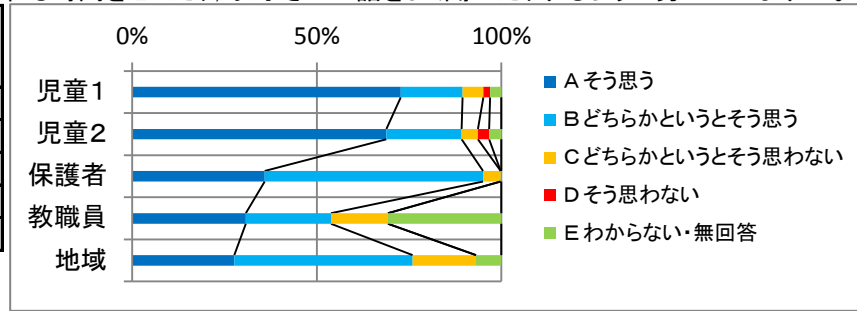


※児童:夢やめあてをもって頑張っていますか。

児童の肯定的な評価の割合は約90%になっている。仙台市として取り組んでいる「自分づくり教育」についてのカリキュラムを各学年で取り入れながら、スチューデントシティでの活動、自分づくり夢教室、商店街と連携した職場体験等、将来の夢や生き方について考える機会を増やしている成果と考える。

8 ご家庭(地域)は、お子さんに関わる時間をとったり、お子さんの話をよく聞いたりするように努めていますか。

	Aそう思う	Bどちらかというと思う	Cどちらかというと思う	Dそう思わない	Eわからない・無回答
児童1	72.7	16.8	5.6	1.8	3.1
児童2	68.9	20.4	4.4	3.1	3.3
保護者	35.9	59.1	4.8	0	0.2
教職員	30.8	23.1	15.4	0	30.8
地域	27.6	48.3	17.2	0	6.9

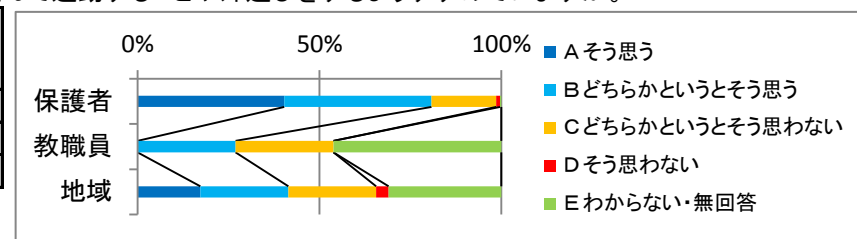


※児童1: おうちの人は、話をよく聞いてくれますか。(相談のってくれますか。) ※児童2: おうちの人は、自分のことをわかってきていますか。

児童の肯定的な評価の割合は、二つの項目とも約90%である。保護者の肯定的な評価の割合も95%で保護者は子供と関わる時間や話を聞く時間を大切にしていること、我が子ときちんと向き合いながら子育てをしていることが分かる。

9 ご家庭(地域)は、お子さんに進んで運動することや外遊びをするようすすめていますか。

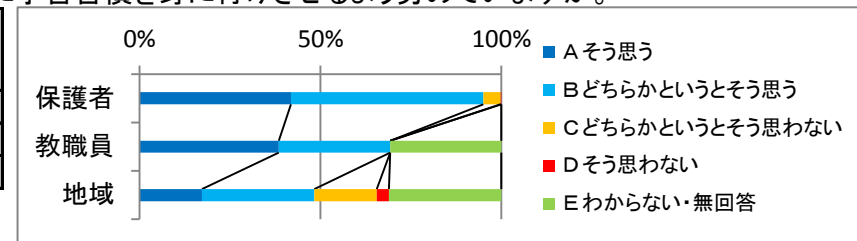
	Aそう思う	Bどちらかというと思う	Cどちらかというと思う	Dそう思わない	Eわからない・無回答
保護者	40.3	40.5	17.8	1	0.4
教職員	0	26.9	26.9	0	46.2
地域	17.2	24.1	24.1	3.4	31



保護者の肯定的な評価の割合は、約80%である。家庭での運動や外遊びに対する意識の高まりが伺える。一方、「そう思わない。どちらかというと思う。」と考えている保護者、教職員、地域の方も多いため、児童の外遊びや運動に対し、課題意識を持っていることが分かる。今後、さらに地域の協力を得ながら、土曜日の学校施設の自由開放を引き続き実施するとともに、放課後を使ったイチヨウ塾の活動等、児童の遊び場の確保に努めたい。さらに、体育の授業とも関連させながら、児童が外遊びの楽しさを実感できるように指導を工夫していく。

10 ご家庭(地域)は、お子さんに学習習慣を身に付けさせるよう努めていますか。

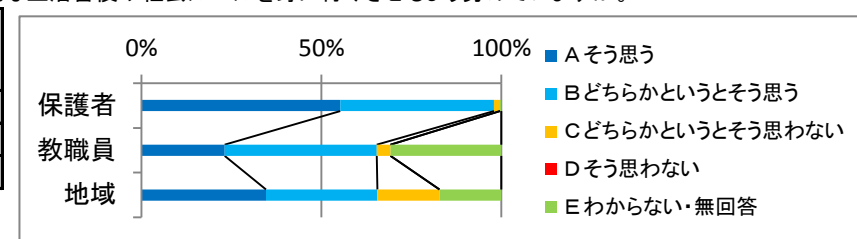
	Aそう思う	Bどちらかというと思う	Cどちらかというと思う	Dそう思わない	Eわからない・無回答
保護者	41.9	53.2	4.8	0.2	0
教職員	38.5	30.8	0	0	30.8
地域	17.2	31	17.2	3.4	31



保護者の95%は肯定的な評価で、児童への働き掛けをしっかりと行っていききたいという保護者の高い意識が表れている。教職員も「わからない・無回答」以外は、全て肯定的な評価になっており、家庭の協力が得られ、連携が取れていることが伺える。今後も、基礎・基本の確実な定着という点でも、保護者と学校がさらに連携しながら、学習習慣の定着を図っていききたい。

11 ご家庭(地域)は、お子さんに基本的な生活習慣や社会ルールを身に付けさせるよう努めていますか。

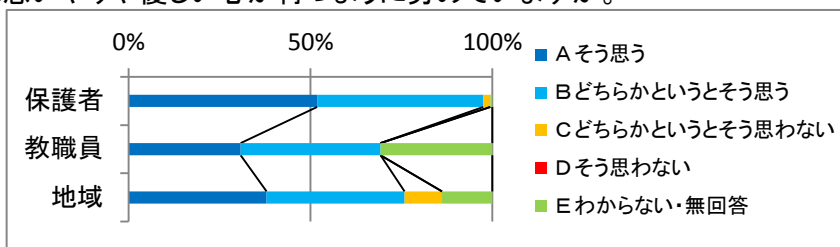
	Aそう思う	Bどちらかというと思う	Cどちらかというと思う	Dそう思わない	Eわからない・無回答
保護者	55.2	42.7	1.7	0	0.4
教職員	23.1	42.3	3.8	0	30.8
地域	34.5	31	17.2	0	17.2



生活習慣や社会ルールを身に付けさせるよう努めている家庭がほぼ100%であり、教職員の「わからない・無回答」以外はほぼ肯定的な評価であることから、子育てに対する保護者の意識が高いが分かる。生活習慣や社会ルールが十分に身につけていないと思われる児童に対しては、学校側と保護者で情報交換を密に行いながら、個に応じた対応、働き掛けを更に進めていく必要がある。

12 ご家庭(地域)は、お子さんに思いやりや優しい心が育つように努めていますか。

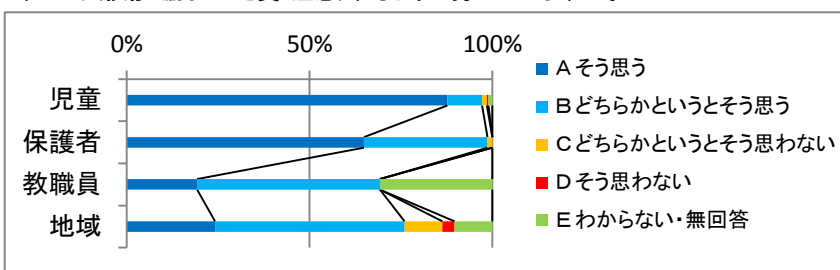
	Aそう思う	Bどちらかというと思う	Cどちらかというと思う	Dそう思わない	Eわからない・無回答
保護者	51.8	45.7	1.9	0	0.6
教職員	30.8	38.5	0	0	30.8
地域	37.9	37.9	10.3	0	13.8



思いやりや優しい心が育つように努めている家庭がほとんどであり、11の項目同様、保護者の意識の高さが結果に表れている。教職員も「わからない・無回答」を除くと全て肯定的な評価であり、家庭や地域が学校と連携して子供を育てようという意識の高さを実感している。全校で取り組んでいるいじめや不登校の未然防止に向けた取組が保護者や地域の方々にも広がっているため、次年度以降も保護者、地域の方々との協力をいただきながら進めていきたい。

13 ご家庭(地域)は、お子さんに積極的に声がけ(挨拶・励まし・叱責・注意)するように努めていますか。

	Aそう思う	Bどちらかというと思う	Cどちらかというと思う	Dそう思わない	Eわからない・無回答
児童	87.8	9.5	1.3	0.4	1.1
保護者	64.8	33.8	1.3	0	0
教職員	19.2	50	0	0	30.8
地域	24.1	51.7	10.3	3.4	10.3

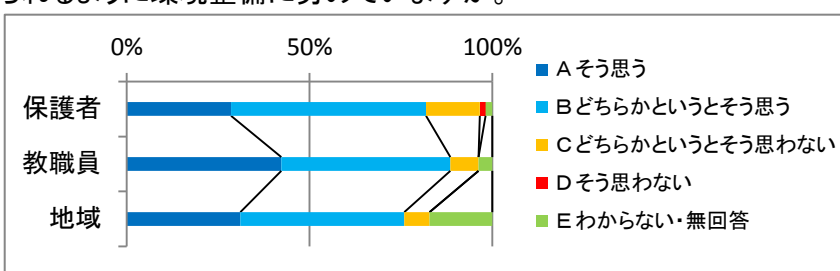


※児童:おうちの人は、ほめたり、しかったりしてくれますか。

ほとんどの児童が保護者は、叱ったりほめたりしてくれていると感じている。家庭での教育について、保護者の意識が高く、ほとんどの家庭で積極的な声掛けに努めている。児童をしっかり育てていきたいという気持ちの表れである。地域の肯定的な評価の割合も「わからない・無回答」を除くと80%を大きく超えており、地域の方々も学校、保護者と一緒に本校児童を育てていこうという意識を持っていることが分かる。

14 学校は、明るく清潔感が感じられるように環境整備に努めていますか。

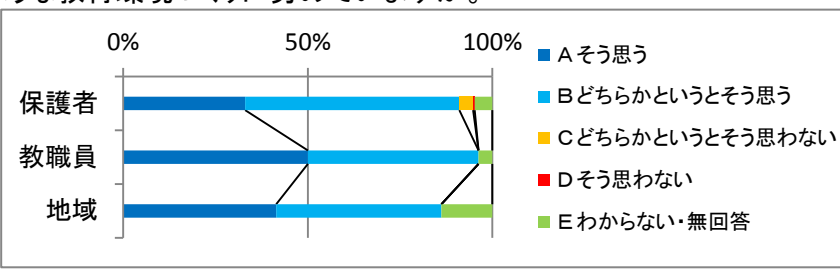
	Aそう思う	Bどちらかというと思う	Cどちらかというと思う	Dそう思わない	Eわからない・無回答
保護者	28.5	53.3	14.7	1.5	1.9
教職員	42.3	46.2	7.7	0	3.8
地域	31	44.8	6.9	0	17.2



15%以上の保護者がマイナスの評価をしている。保護者の記述にも多く書かれているが、トイレや水場の改善に対する要求が多かった。教職員の話合いでもトイレを中心とした清掃について話題となった。今年度、行政への働きかけを行った結果、厳しい予算配当の中、3階北トイレ塗装工事が実現した。次年度以降も、行政への働きかけを継続していく。日常の清掃活動に力を入れながら、学校と保護者が協力して清掃活動を行い、校舎やトイレの美化に努めていきたい。また、地域とも協力して洋式トイレの増設をはじめ、施設改善についての要求を更に進めていきたい。

15 学校は、豊かな情操を育むような教育環境づくりに努めていますか。

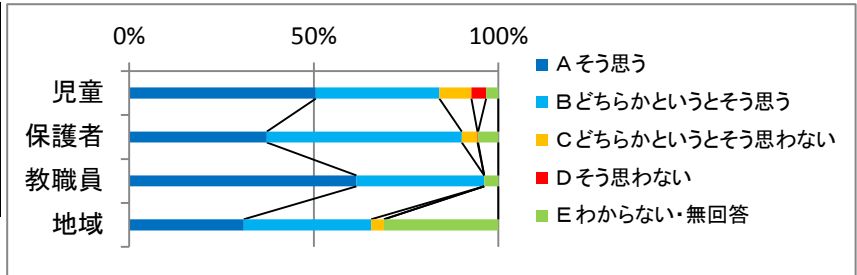
	Aそう思う	Bどちらかというと思う	Cどちらかというと思う	Dそう思わない	Eわからない・無回答
保護者	33	58	3.8	0.4	4.8
教職員	50	46.2	0	0	3.8
地域	41.4	44.8	0	0	13.8



「わからない・無回答」を除くと、保護者、地域、教職員のほとんどが肯定的な評価をしている。学習発表会、一高吹奏楽部による演奏会、ミュージカル鑑賞、芸術家派遣事業による体験などを通じて、子供たちの情操面を育む努力をしてきたことを評価していただいていると考える。

16 学校は、分かる喜び、成し遂げる喜びを味わえるような教育活動に努めていますか。

	Aそう思う	Bどちらかというと思う	Cどちらかというと思わない	Dそう思わない	Eわからない・無回答
児童	50.5	33.5	8.7	4	3.3
保護者	37.3	52.8	4.2	0.2	5.5
教職員	61.5	34.6	0	0	3.8
地域	31	34.5	3.4	0	31

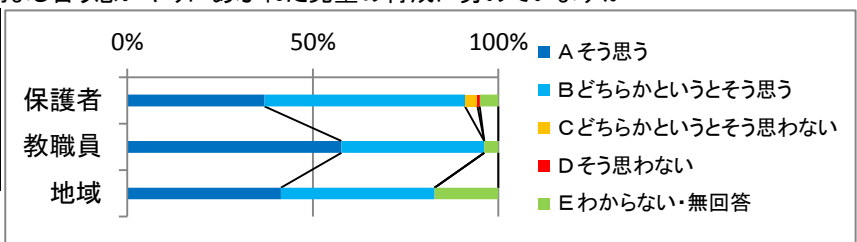


※児童：学校の授業は楽しいですか。

児童の84%、保護者の約90%が肯定的な評価をしている。ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた「だれもが分かる授業づくり」をはじめとする授業改善へ向けた取組が成果として表れており、保護者にも理解していただいていると考えられる。しかし、楽しいと思っていない児童は約13%いる。教職員が更に研修を深めて、児童に分かる喜び、成し遂げる喜びが味わえるような授業づくりを行っていく必要がある。

17 学校は、支え合い、認め合い、励まし合う思いやりにあふれた児童の育成に努めていますか

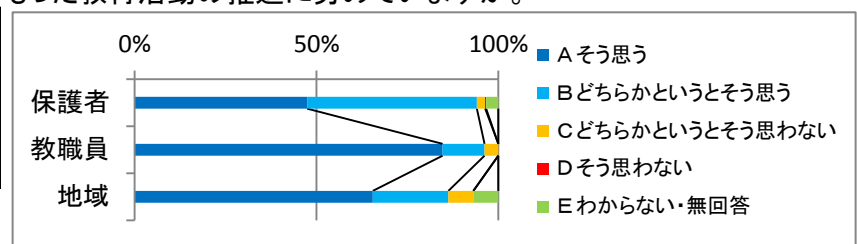
	Aそう思う	Bどちらかというと思う	Cどちらかというと思わない	Dそう思わない	Eわからない・無回答
保護者	37	54	3.4	0.6	5
教職員	57.7	38.5	0	0	3.8
地域	41.4	41.4	0	0	17.2



ほとんどの保護者、教職員は肯定的な評価をしている。6の項目同様、本校の道德教育や学級活動の取組が成果として表れていると考えられる。今後も道德教育の充実に力を注ぎ、様々な教育活動で思いやりの心を育むための取組をしていく。また、学校と保護者、地域が協働することで、思いやりにあふれた児童の育成をさらに推進していく。

18 学校は、地域とのつながりをもった教育活動の推進に努めていますか。

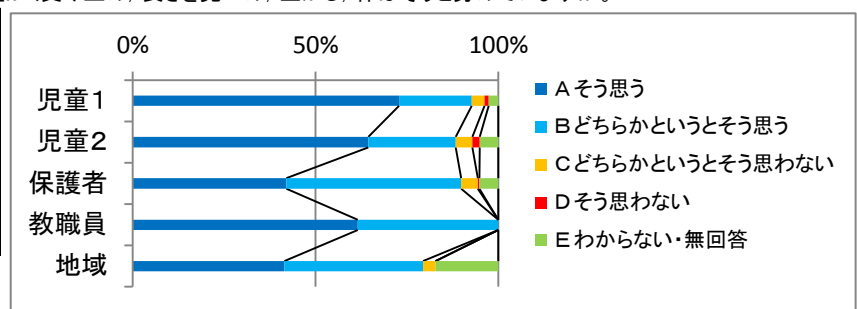
	Aそう思う	Bどちらかというと思う	Cどちらかというと思わない	Dそう思わない	Eわからない・無回答
保護者	47.4	46.7	2.3	0.2	3.4
教職員	84.6	11.5	3.8	0	0
地域	65.5	20.7	6.9	0	6.9



昨年度同様、地域、保護者、教職員ともに地域とのつながりを持った教育活動の推進に努めていると評価している。特に、地域の65%以上が「そう思う」と評価していることから地域との連携がうまくいっていると考えられる。今後も学校と保護者と地域が互いに協力し、地域の特色を生かした活動をこれからも推進していきたい。

19 教職員は、児童一人一人を尊重し、温かく受け止め、良さを見つめ、生かし、伸ばそうと努めていますか。

	Aそう思う	Bどちらかというと思う	Cどちらかというと思わない	Dそう思わない	Eわからない・無回答
児童1	72.9	19.9	3.5	1.1	2.7
児童2	64.5	23.9	4.6	2	5.1
保護者	42	47.8	4.6	0.4	5.2
教職員	61.5	38.5	0	0	0
地域	41.4	37.9	3.4	0	17.2



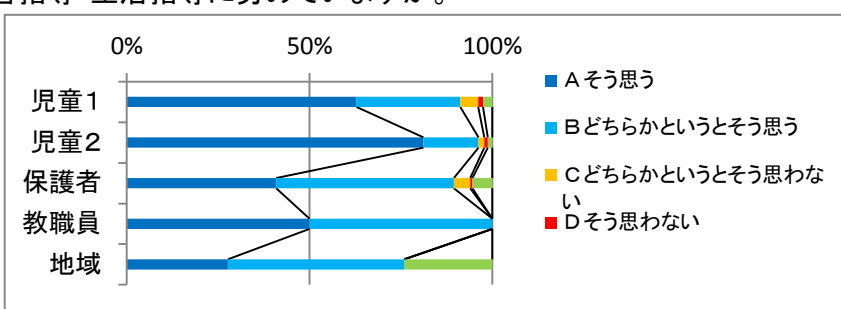
※児童1：先生方は、話をよく聞いてくれますか（相談にのってくれますか）。

※児童2：先生方は、自分のことをわかってきていますか。

児童、保護者ともに約90%が肯定的な評価をしている。教職員が時間を取って児童の話をしっかりと聞くように心がけている成果であると考えられる。しかし、約5%の児童が否定的な評価をしている。今後も、教職員が児童一人一人に寄り添い、共感的に理解するように努めるなど、児童理解に向けた取組を推進していく。

20 本校の教職員は、適切な学習指導・生活指導に努めていますか。

	A そう思う	B どちらかというと思う	C どちらかというと思わない	D そう思わない	E わからない・無回答
児童1	62.8	28.4	4.9	1.3	2.6
児童2	81.1	15.1	1.6	0.9	1.3
保護者	40.9	48.6	4.4	0.6	5.5
教職員	50	50	0	0	0
地域	27.6	48.3	0	0	24.1



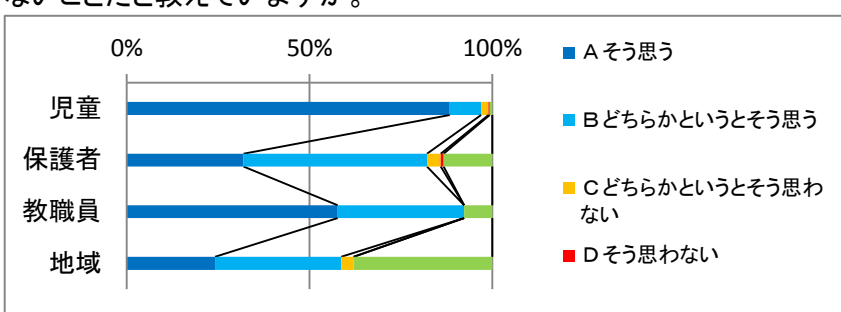
※児童1:学校の授業はよくわかりますか。

※児童2:先生方は、ほめたり、しかったりしてくれますか。

肯定的な評価をした児童の割合は、90%以上である。また、保護者、地域ともに、多くの方が「教職員は、適切な学習指導・生活指導に努めている」と評価してくださっている。教職員は、授業改善に取り組むとともに、研修会等への参加を通して、新たな知識の習得に努めるなど、「どの子にも分かる授業」を目指して今後も努力しなければならない。次年度も、いじめ・不登校の未然防止に全校で取り組み、どの子も楽しく、そして、安心して学校生活を送れるように、積極的な生活指導を行っていく。

21 先生方は、いじめは絶対許さないことだと教えていますか。

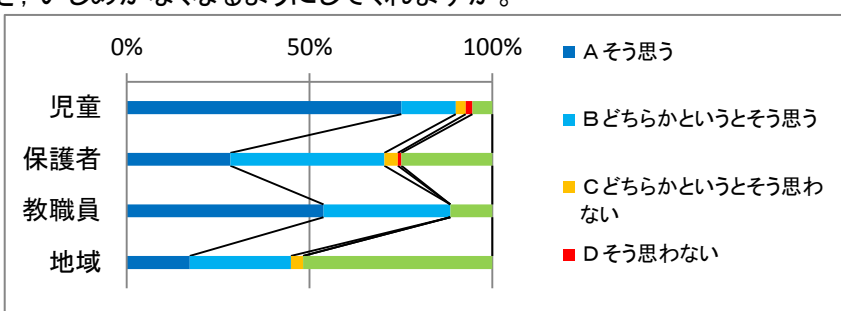
	A そう思う	B どちらかというと思う	C どちらかというと思わない	D そう思わない	E わからない・無回答
児童	88.3	8.6	2	0.4	0.7
保護者	31.9	50.2	3.8	0.8	13.3
教職員	57.7	34.6	0	0	7.7
地域	24.1	34.5	3.4	0	37.9



ほとんどの児童が、いじめについて考える機会があり、いじめは許されないことだと思っている。教職員も全員が「いじめ」について指導をしていると答えているが、今後さらに、道徳や学級活動の時間を充実させるとともに、外部講師を招いて、いじめ防止や人権擁護をテーマとした授業を行うなど、いじめの未然防止に向けた取組を充実させたい。

22 先生方は、いじめがあったとき、いじめがなくなるようにしてくれますか。

	A そう思う	B どちらかというと思う	C どちらかというと思わない	D そう思わない	E わからない・無回答
児童	75.1	14.9	2.7	1.8	5.5
保護者	28.4	42.1	3.7	1	24.9
教職員	53.8	34.6	0	0	11.5
地域	17.2	27.6	3.4	0	51.7



四者ともほぼ肯定的な評価であったが、児童、保護者の否定的な評価を0%にする努力が必要である。また、保護者・地域の「わからない・無回答」の割合が多く、学校としてのいじめに対する取組が周知されていないことが伺える。様々なケースがあるが、ケースに応じた適切な対応ができるように学校全体で組織として対応していく。